



FISCA

友 情
第 39 号

富士宮国際姉妹都市協会

Fujinomiya International Sister City Association Sister City News Volume 39



会長挨拶

富士宮国際姉妹都市協会会長 望月芳明

新たな年号が令和となる昨年5月の総会で会長に就任しました望月です。早一年になろうとしていますが、労苦を惜しまずご協力くださった全ての皆様に心より感謝申し上げます。

昨年は台風に伴う記録的な豪雨が度重なり甚大な災害となっていました。改めて被災された方々に衷心よりお見舞い申し上げます。

さて、本年度の事業を振り返ってみますと、4月にサンタモニカ高校生37名が来宮、2日間市内の家庭でホームステイを行いました。我が家を提供して下さった皆様には心より厚く御礼申し上げます。一人一人がかけがえのない金の思い出を積まれたことでしょう。

また、夏には恒例の交換学生事業として沢山の応募の中、4名が選出、夢をのせてサンタモニカへ向かいました。毎日が英語ですから大変だったかもしれませんが、今まで味わった事がない最高の一日一日だったと思います。そして2週間後には現地の高校生2名と共に帰国、今度はこちらの家族がホストファミリーとしての生活です。協会の行事は、市内観光として浅間大社参拝、陶芸体験ではオリジナルな茶碗やコーヒーカップなど素敵な作品が完成、きっと自慢のおみやげとなった事でしょう。また、富士山へ登った時は五合目辺りで見渡す限りの雲海が広がり、思わず歓声をあげたことなど忘れることはないと思います。外神東公園ではサンタモニカピアサインのレプリカで記念写真、食事は当然富士宮やきそばやお好み焼きなどを自分たちで作り、とても楽しそうでした。歓迎レセプションでは浴衣姿で日本舞踊を習い、お鮎やかき氷を頬張っていました。そして、市長表敬訪問、6名のメンバーがそれ

ぞれ両市両国の代表として感想や抱負を語ってくれました。ともあれ、若き時代に異国の文化や生活を経験できたことは本当にすごいと思います。参加して下さったメンバーがいつまでも友情をはぐくみ、両市のかけはしとなって頂ければこれ以上の喜びはありません。

そして、いよいよ次年度は姉妹都市提携45周年を迎えます。1975年に蒔かれた種は信頼の絆も固く今や堂々とそびえたつ大樹となったと実感いたします。両市の歴代会長はじめ、役員、関係各位のたゆまぬ努力の積み重ねがあったればこそ今が築かれたと思うと、幾重にも感謝の気持ちでいっぱいです。私が初めてサンタモニカを訪れたのは今から36年前でした。創価学会の親善訪問団として参加し、大歓迎を受け、市庁舎の前で記念写真を撮ったことなど今でも鮮明に覚えています。その後、協会員として2回参加させて頂きましたが、何よりうれしいのは調印式で署名をされたナットさんがますますお元気でられることです。8月に計画している親善訪問団の時も、笑顔いっぱい私たちを迎えてくれると思います。一人でも多くの方がご参加できますように、市民の皆様のご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、役員、事務局の皆様には大変お世話になりますが、何卒よろしく願い申し上げます。

偉大なる 歴史刻みて 幾星霜
永遠にかがやく 姉妹都市かな!



サンタモニカ高校受け入れ

日程：4月12日（金）～14日（日）

学生37人、引率者3人

学生は市内にホームステイ



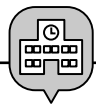
昼食



SAKUYA ダイニングにて昼食



ラジオFのインタビューを受けました



富士宮西高校訪問

授業体験



英語の授業を一緒に



本場の英語を体験できました

英語を聞き取ろうと真剣です



あっという間に仲良くなりました

部活体験



日本の文化、書道体験



弓道を体験、とても難しそうでした

剣道を体験、かっこよく決まっています



茶道体験、正座が辛そうでした





市長表敬訪問



サンタモニカ高校から
記念品をいただきました

いただいた記念品を身につけ写真撮影



見送り

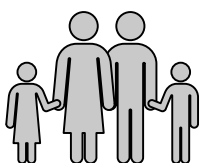


数日間ですっかり仲良くなりました



一生の思い出になりました

別れが名残惜しそうでした



ホストファミリーの声

1、アメリカの学生を受け入れてみて、楽しかったことや印象に残っていること

- 受け入れた学生は、5歳の息子と一緒に遊んでくれ、また、出かけた先でもおんぶや抱っこをしてくれるなど、息子と優しく関わってくれた。息子は学生のことが大好きになった。
- アメリカと日本の学生の違いを話した。実際に話をすることで良い刺激になった。
- ホストファミリーとして学生を受け入れたことが我が子にとってとても勉強になり、いい刺激となった。その後、LINEで英語を使いやり取りを始めたようで、父親としてはこれ以上願うことはありません。
- 礼儀正しい学生で、家族全員が好印象をもった。

2、アメリカの学生を受け入れるうえで気を付けたことや考えたこと

- 学生の体調不良の際、どう対応すればいいのかと迷ってしまった。
- 学生に疲れている様子があれば、1人でリラックスできる時間を持たせた。
- 2人の学生を受け入れたが、2人の日本語レベルに差があったため、日本語を使える環境をもう少し考えてあげればよかった。

3、今後このような事業があれば、またホストファミリーをしたい

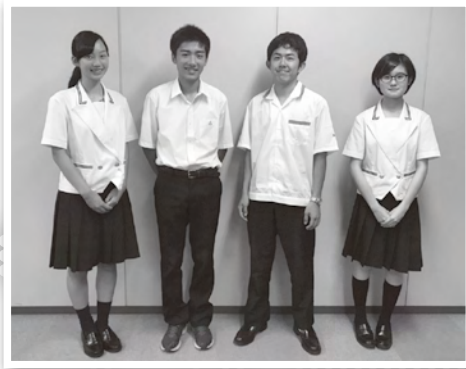
はい (15人/15人)

サンタモニカ交換学生事業

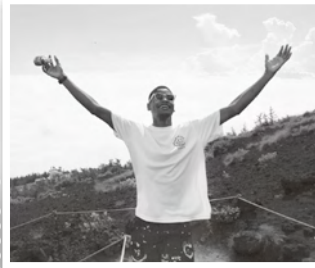
渡米：2019年7月25日(木)～8月6日(火)
 受入：2019年8月7日(水)～8月19日(月)
 学生：富士宮市4名
 サンタモニカ市2名



令和元年度 交換学生



写真左から
 小野田青波(星陵)、三澤鷹岳(富士)、
 淵本峻平(星陵)、下村澄青(星陵)



Quincy Jamieson
 (サンタモニカ高校)



Johana Avina
 (フュージョン・アカデミー)



サンタモニカ市滞在中の様子



羽田空港出発直前



家族に
 見送られ出発



NASAを訪れました



交換学生の
 クインシーと



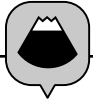
サンタモニカでの
 集合写真



メジャーリーグを観戦、
 大谷選手を観ることができました



サンタモニカ市長を
 表敬訪問



富士宮市滞在中の様子



サンタモニカの学生とともに帰国



宝永山を散策、雲海がとても綺麗でした



自分たちで焼きそばを作りました



陶芸体験をしました 没頭しています



浅間大社にて、
ご祈禱を受けました



須藤市長を
表敬訪問

サンタモニカ講座
アメリカでの体験
を発表しました



ウェルカムパーティ



日本舞踊を皆で体験しました



外神東公園、サンタモニカの小道にて

サンタモニカ滞在で感じた自分自身の変化

しもむらすばる
下村澄青（星陵高等学校）



私はこの事業に参加するまでに何度か海外でホームステイをする機会があったが、今回のサンタモニカ生活は私の人生に大きな変化を与えてくれたと感じる。

一つ目は英語に対する感情の変化だ。中学二年生の時、オーストラリアに二週間滞在した私は、「単語だけでも十分外国人と会話できる」と今思えば英会話を侮っていたとしか思えない発言をしていたが、今回の滞在を経て、「単語だけでも十分外国人と会話できる」はずがなかったのだと痛感した。私のホストシスター Johana は私と同じくアニメや漫画が大好きで、よく一緒にアニメを観たり、アニメの話をしていたりしたが、楽しさを感じる一方で自分の思っていることを十分に伝えきれないもどかしさを感じることを日を追うごとに強くなった。もっと英語を話すことが出来れば、もっともっと楽しい会話ができただろう。英語を話すことが出来るようになれば、話せる相手も、話せる話題も多くなる。だからもっと英語を話せるようになりたいと感じられるようになったことが、私にとって大きな成長であると思う。しかしながら帰国後すぐに受けた模試のリスニング試験の音声がひどくゆっくりであるように感じられたことはとてもうれしく、試験中ニヤニヤしてしまった。



二つ目は人とのかわり方の変化だ。私はどちらかという狭い交友関係の中で生活してきたと感じており、休みの日も部活以外はほとんど家から出ないようないわゆる超インドア人間だ。そんな私がホストファミリーはもちろん、一緒にサンタモニカへ向かう三人と良い関係を築いていけるのだろうかかと不安に思っていた。しかしそんな心配は無駄であったと大きな声で今ならいえる。ホストファミリーはとてもフレンドリーで、私たちを温かく迎えてくれた。困ったことがあっても丁寧に対応してくれ、アメリカにもう一つの家族が出来たような気分だ。同じ事業に参加した三人も明るく話しかけてきてくれたことがとてもうれしかった。アメリカでの生活はもちろん、日本に帰ってきた後も、留学生の二人も交えて一緒に東京に遊びに行ったこともこの夏の思い出の一つだ。今まであまり自分のコミュニティをすすんで広げることは無かったけれど、自分が勝手に定めた枠組みから一歩踏み出したときに新しい価値観や世界観を広げることが出来るのだと学んだ。

三つ目は考え方の変化だ。私はサンタモニカで環境

保全やゴミ問題について学んできたいと思っていたがそれはどこか受動的な気持ちが強かったように思う。しかし現地を訪れ、当たり前のことだが自分から積極的に行動しなければ欲しい情報は手に入らないことに気づいた。自分からゴミの分別について尋ねたり、ゴミ箱の写真を撮ったりしているうちに日本に帰ってもこの話題についてもっと調べたいという感情が芽生えた。地元ショッピングセンター内の服屋がショッピングバッグの紙製化に取り組んでいるという張り紙に気づいたとき、店員さんに対し自然と自分が調べている分野なので張り紙の写真を撮らせてほしいという言葉が口をついて出た。自分でも主体的に行動がとれたことに驚いたが、写真を撮らせてほしいと言ったと同時になぜかサンタモニカでの生活をふと思い出したことにもっと驚いた。現地での何気ない思い出が、自分の日常に小さくとも大きな意味を持つ変化を与えているのではないだろうか。



サンタモニカでの二週間の思い出と、それに伴う自分自身の変化について話したらきりが無い。サンタモニカピアで乗ったアトラクションで酔ってしまい家に着くなり寝てしまったため夜中に目が覚めてしまいなかなか寝付けなかった一日目。進撃の巨人を英語字幕でホストシスターと見始め、ホームシックが吹き飛んだ三日目。念願の夢だったハリウッドのアトラクションに乗ることが出来たユニバーサルスタジオ。サンダルで来てしまったことを激しく後悔したハリウッド登山やそのサンダルの形がくっきり残った日焼けをしたことなどなど、些細な事のように思えても私にとっては忘れられない大切な思い出だ。高校二年生の夏休みにこのような体験ができたことをとても喜ばしく思う。

サンタモニカに行ったことで今困っていることはふたつ。サンダル焼けがまだくっきり足に残っていること、アメリカで食べたハンバーガーのおいしさが忘れ



られず日本のハンバーガーが物足りなく感じてしまうことだ。

是非日焼け止めをしっかりと塗って、ホストファミリーとまたおいしいハンバーガーと一緒に食べたい。

自分を変えてくれた場所



私は、中学生の頃から英語に少し苦手意識を持っていました。だから、いつの間にか「英語を話す」ということに大きな壁を感じるようになっていました。

私がこの交換学生事業を知ったのは、中三の時でした。私の一つ上のいとこが交換学生に選ばれ、日本でいとこのバディのカリーナと一緒に過ごす機会を持ったことで、考え方が大きく変わりました。初めのうちは、「私の英語をしっかりと聞き取ってもらえるのか」「間違っていたら恥ずかしい」という気持ちが先に立ち、緊張しましたが、カリーナはいつも私の話を一生懸命聞き、理解してくれようとしていました。その経験によって、自分の力でもっとコミュニケーションをしたいと思い、この事業に応募しました。

交換留学生に選ばれ、バディが決まると知らされずすぐに、バディのジョハナと連絡をとりました。「アメリカで何をしたいか」や、「どこに行きたいか」など、アメリカに行く前にたくさん話をしました。英語が苦手と伝えた時も、心配しなくていいよと言ってくれて、安心して行くことができました。

ロサンゼルス空港で初めてホストファミリーと会った時、笑顔で私達にハグをしてくれました。特にジョハナは、私の好きな海外のアーティストの曲をかけてくれたり、日本の好きなところを話してくれたりしました。初日にして、もうずっと一緒にいるのかと思うくらい仲良くなることができました。

ホストファザーは私を色々な所に連れて行ってくれ、ホストマザーは私に色々な事を教えてくれました。特に、ホストファミリーの知り合いの家族の家に連れて行ってもらった時、私は貴重な体験をしました。

その家族はユダヤ人でした。彼らは毎週金曜日の夜に、食べ物や生活を与えてくださった神様に感謝の気持ちを込めて歌を歌い、パンをちぎって食べるという儀式を行っており、私も参加させてもらいました。皆、笑顔で歌を歌っていました。その時、ホストファザーに「宗教を怖いと思ってはいけませんよ。自分が体験しなければ分からないこともある。」と言われました。この経験を通して、固定観念にとらわれずに、何



でも挑戦するということが大さということを教わりました。

また、ちょうどいともカリーナに会いにアメリカ

おのだせな
小野田青波 (星陵高等学校)



に来ていたので、3人でカリーナの家で遊びました。カリーナは元気な子で、歌を歌って聴かせてくれたり、近くのアイスクリーム屋に連れ

て行ってくれました。カリーナと過ごした時間は少なかつたのですが、とても楽しくとても良い思い出となりました。

さらに、男の子達のホストファザーがテレビ関係の仕事に行っていて、撮影中のコマーシャルの見学をさせてもらいました。大坂なおみの撮影をしていて、小学校からテニスをやっている私にとって、世界のトップの選手を間近で見られたことは本当に貴重な体験でした。

日本では、ジョハナはアニメが好きなので、アニメを取り扱うお店に行ったり、交換学生と留学生全員で東京に行ったりしました。私達が紹介する物全部に興味を持ってくれて、とても嬉しかったです。日本人は感謝をする時におじぎをする風潮がありますが、ジョハナは、それを見て「ありがとう」と言った後に必ずおじぎをしていました。もちろん、「いただきます」「ごちそうさま」を言い忘れたことはありません。日本が大好きで、日本特有の風潮を積極的に取り入れる姿勢がとても素敵だと思いました。

ジョハナがアメリカへ帰る日、私達は空港まで見送りに行きました。4週間、ずっと一緒にいた分、悲しさが込み上げてきました。その時、ジョハナは「来年も必ず会おう。」と言ってくれました。今でもジョハナとはSNSで会話をしています。



この事業に参加して、自分の英語力の低さに改めて気づかされました。しかし、今までは人に頼ってしまうことが多かったのですが、自分でしっかりと考え、意思を伝えることが積極的にできるようになりました。また、英語を身近に感じ、英語を学ぶことが好きになりました。そして、海の向こうに、かけがえのない友達ことができました。ジョハナと出会ったこと、一緒に過ごせたことは、私の人生の中でとても大きな思い出です。この事業に関係するすべての方に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

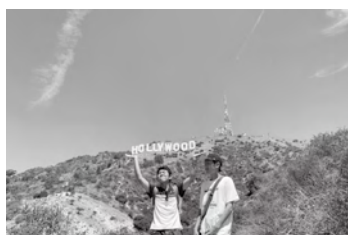
大慶至極の経験

ふちもと しゅんぺい
瀧本 峻平 (星陵高等学校)



あの四週間はあっという間だった。僕が訪れた二週間、彼を迎え入れた二週間。この上ないほどの充実感と常に新しいものに触れている新鮮さ、何もかもが自分にとって

の最高の経験として脳に書き込まれていくように感じた。僕はとにかく海外の人とのコミュニケーションが好きだった。中学の頃にオーストラリアとハワイに研修として訪れ、日本とのギャップに驚くとともに、まだまだ英語が未熟だった僕は、もっと英語を上達させたい、もっとうまくコミュニケーションをとりたいと感じた。そして、自分が過去の海外研修で感じた自分が成長しているという実感を、自分のこれからを含めた成長を見込み、今回の事業に参加しようと決意した。アメリカについたらすぐにホストファミリーが自分のこと知ってたかのように迎えてくれた。一瞬どうやってコミュニケーションをとろうか飛行機内で悩んでいたのがばからしくらいにすぐに溶け込むことが出来た。とにかくホストファミリーが優しかった。初日からホストマザー、ファザーとともにアメリカンな肉の塊と美味すぎるアイスをごちそうになった。うまく表現できないが、とにかく日本とは違ったおいしさがあった。そうこう感じているうちにもう家族のように接していた。英語の能力は



ホストファミリーの理解力がよかったんだなと感じながらもうまくコミュニケーションをとることが出来た。そこから一瞬で時が過ぎたかのように充実した二週間が始まった。サーフボード体験、USH、野球観戦(大谷翔平)、ビーチ、etc...書ききれないくらいいろんなところに連れて行ってもらった。途中いろいろと困難なこともあったりしたが、満喫していた。そして、自分の中のメインイベントが始まった。それはJPLというNASAのカリフォルニア州にある施設に行った時だった。僕は、中学のころから宇宙に興味があり自分でも調べたり企画にも参加するほどだった。そんな時、アメリカに行く前に、向こうでNASAを見学してみないかと聞かれた時、はい!と即答した。そこでは、自分の一番興味のある火星のことについて研究していて、実際に近い将来飛び立つ実際のロボットやロケットを見させてもらった。興奮が止まらなかった。そして施設の人にインタビューができる場面で自己紹介の時に、調子に乗って「僕は宇宙に興味があり今とても興奮しています、将来きっと、ここに戻ってきます」と宣言してしまった。本当に調子に乗ったと後悔した半面、ここに戻ってくるという目標



になった。自分の曖昧だった夢が定まって、自分の日ごろの生活にもモチベーションが生まれた。その時の情景は今もずっと頭に焼き

付いている。更に、こんなことをやってしまったんだよとホストマザーに言うとも待ってると言い応援してくれた。

僕のバディのクインシーはシェフの見習いとしてレストランで働いていて、とても愉快な人で、本当の兄弟のようになっていた。彼は日本のアニメがとにかく好きだった。カリフォルニアでの夜はアニメ鑑賞でいっぱいだった。とにかく思いが強かったので日本に来て、進撃の巨人展に連れて行ったときは自分がNASAに連れて行ってもらった時のように興奮してやまなかった。彼はアメリカでは仕事の関係であまり一緒にいられなかった分、日本で一緒に満喫した。一番大きく驚いたことは、自分が普段行くような場所でも彼と一緒にいくと、全く違う場所にいるような気がしました。そしていつも何か嬉しかったり楽しかったりしたら、ハイタッチやハグを交わし、僕はそのたび、こうして簡単にその時の感情が共有できる文化が日本にもあればと思った。最終日には、彼が料理に興味があることから日本食の料亭に行き、最後の晩餐をした。料亭のおもてなしもあってか彼は泣いてしまった。ありがとうと日本語で言われたときは自分も泣きそうになってしまった。別れるときは本当に辛くなってしまった。

僕は今回の研修で本当にいろんなことを学ぶことが出来た。日本では学べないこと感じられないことを五感で感じる事が出来たと思う。とにかくコミュニケーションに関しては特に、だ。現地の人は何か感じたらすぐに誰とでもコミュニケーションをとる。日本もこれからこのようになっていかなのかなと感じた。そして今回の企画を通していろんな人と関わることが出来た。そしてそのコミュニケーションを通じて自分の調べていることや気になっていることを、市を通して知ったり、活動することが出来た。このようなチャンスをいただけて本当にありがたく思っている。これからこの経験を生かして、学校生活でもそれ以外にも、様々なところでコミュニケーション能力を生かし、人脈を広げ多くのチャンスをものにしたい。そしてこの経験を絶対に忘れず日々の生活に生かしたいと思う。



とにかくやってみよう

み さわ たか もり
三 澤 鷹 岳 (富士高等学校)



きっかけは学校で配られたこの事業への参加を呼び掛けるチラシだった。富士宮市とサンタモニカ市が姉妹都市であることは知っていたが、正直、サンタモニカ市が広いア

メリカのどこにあるかはわからなかった。しかし、僕は日本から遠く離れたアメリカに市の代表として行き、向こうの同年代の人と親交を深めるという響きに心を奪われた。家に帰ってすぐに家族に承諾を取って、説明会に参加し、応募した。幸いなことに、しばらくして交換学生の一人に選ばれたという知らせが届いた。

サンタモニカのバディの名はクインシー。行く前からメールで連絡を取り、何がしたいか伝え合った。

出発当日、東京から約九時間飛んでアメリカについた。

夕方に東京を発ったのに、時差のせいで、同じ日の午前中にアメリカについたのが少し変な気分だった。

空港にはクインシーのお母さんが来ていて、家まで送ってくれた。遠い異国で緊張していた僕に、「外国語を話すときに大事なものは、合っているかどうかではなく、挑戦することよ。」と言ってくれた。この言葉のおかげで緊張はほぐれ、積極的に話しかけることができた。車中は日本とアメリカの気温の単位の違いや、家族の話などで盛り上がった。むこうの家族はみんないい人で、いろいろしてもらったり、気にかけてもらったりした。

アメリカではたくさんの日本ではできない経験をした。その一つがシックスフラッグスという遊園地のジェットコースターだった。僕はそういう類のものは嫌だったのに、クインシーと行くことになってしまった。嫌々ながらも結局乗ることになったが、乗ってみるととても楽しかった。乗り終わった後に、「楽しいって言っただろ？」とクインシーに笑いながら言われた。些細なことだがこれも挑戦できたことだった。

もう一つ印象深いのがむこうで映画を見たこと。



翻訳、字幕はもちろんなかったけど、英語環境にいて耳が少し慣れてとても楽しく見ることができた。このことは自分の英語力への自信につながった。他にも、クインシーのお父さんがテレビ関係の仕事をしていたので、なんと大坂なおみのCM撮影を見せてもらえたり、スポーツといえば、メジャーリーグのエン

ゼルスとの試合で、大谷翔平のプレーも生で観戦できた。サンタモニカのとても長いビーチを歩いたり、NASA 関連の施設



内の見学で、実際の管制室に入ってその椅子に座ったりすることもできた。そんなこんなでアメリカでは本当に充実した日々を過ごし、二週間はあっという間に過ぎてしまった。クインシー家族との別れは寂しかったけれど、同時にこれから日本でともにクインシーとできるいろいろなことを想像して、とても楽しみだった。

日本でも、いろいろなことをした。一緒に部活へ行ってサッカーをしたり、遊園地に行ったり、茶道体験をしたり、映画館でアニメの映画を見たりもした。クインシーはとてもアニメが好きなので、漫画がたくさん置いてある本屋にも行った。サンタモニカでは共通の好きなアニメの話で盛り上がるほどだったので、本屋では棚を埋め尽くす漫画の数にクインシーはとても興奮していた。すると、日本語は全く読めないのに、好きなアニメのシリーズやいろいろな漫画の最新刊を合わせて十数冊も買った。そしてとても楽しそうに読んでいて、たまに僕を呼んでセリフを指さし「これは何て言ってる？」と聞くので、自分が英語に訳すということを何回も続けるうちに、僕もクインシーの好きな漫画にはまってしまった。その後、僕たちは所構わずその漫画のキャラの決め台詞を言まくるようになった。今考えると少し恥ずかしいが、一つのとてもいい思い出だ。

毎日が本当に楽しかったので、結局日本での日々もあっという間に過ぎ、クインシーが帰る日が来てしまった。クインシーとは、今も連絡を取り合っていて、またいつか会うことを楽しみにしている。

と、このようにとても素晴らしくていいことづくめのこの交換留学だったけれど、一つ注意しなければいけないことがある。それは夏休みの課題だ。そもそも自分は課題をためてしまうタイプだったうえ、楽しすぎたせいで勉強をやる気はどこかへ行ってしまっていた。楽しい日々が終わって残ったものといえば、大量の夏休みの課題だった。

けど他にも残ったものがある。それは、挑戦すること初めて、何か新しい扉が開けるということ学んだことだ。英語を話すことでも、ジェットコースターに乗ることでも、見かけや恥ずかしさで委縮してしまうより、とにかく挑戦してやってみることで、思ってもみなかった良い結果ができることもあるということ学べた。

この留学は夏休みの貴重な、そして最高の体験だった。楽しめたし、学べたし、自分が変わったし、なにより日本から遠く離れたところにかげがえのない友達とできた。もう一度行きたい。今は、また来年応募すれば行かせてもらえるかがひそかに気になっている。

交換学生事業参加者の声…

学生から…

1. 事業に参加してよかったことは？

- *英語のリスニング力がついて、英検でも前より点が取れるようになった！
- *自分の知りたいこと（環境問題への取り組み）について学べた！
- *英語を話す力、聞く力が上達した！



2. ホストファミリーはどうだった？

- *とても親切でいい家族だった！
- *料理が多くて食べれなくても、笑顔で大丈夫だよと言ってくれた。
- *サーフィンなど普段はできない貴重な体験をさせてくれた！

3. アメリカの学生を受け入れて…

- *ごはんを食べに行ったり、遊びに行ったりと日常の出来事が思い出になった！
- *英語で説明しなければならないので、積極的に英語で話すことができたようになった！
- *日本でいろんなところへ行き、自分自身も日本のすばらしさを改めて知った。

4. 未来の交換学生へ一言！

- *海の向こう側にかけがえのない友達ができた。この事業に参加すれば、「英語」をもっと身近に感じることができるはず！
- *無理なことははっきり無理と伝えれば対応してくれるので我慢せず言ったほうが良い。

保護者の声…

- 外国人の留学生を受け入れることは大変なことだと思いますが、いつも通り生活し、子どもと同じ様に接することが、一番大切だと感じました！
- この事業で、子どもが大変成長したなと思います。私たち家族も、留学生のことやその家族のことまでも考えられるようになりました。

交換学生事業とは…

夏休みを利用して、サンタモニカの学生とペアを作り、お互いの家庭に約2週間ずつホームステイをするという事業です。約1か月間、ペア学生と共に生活することで、英語力の上達はもちろんのこと、一生の友達ができるなど、当協会のメイン事業の1つです。

協会から渡航費の一部補助もあります。詳細は13ページをチェック！

中学生英語スピーチコンテスト

日程：令和2年2月16日（日）

場所：富士宮駅前交流センターきらら
（FAIR 国際交流フェスティバル内）



市内中学生による自作スピーチの発表

○最優秀賞

English for Me 芦澤 圭太



○富士宮ワイズメンズクラブ会長賞

A Guard of Culture 加藤 凜子



最優秀賞スピーチ（抜粋）

These days, I try to read English a little. For example, Harry Potter, Disney and so on. To talk English and to know about English have fun for me. But I know about English little. So, I want to have a lot of experience and know about English more because I can talk with people around the world. So, my life will be fun. English is my best partner from now on!



○出場者

タイトル	名前
The Importance of English	佐々木 義 仁
What I Felt and Learned During My Homestay	佐 野 瑚 花
My Town	市 川 由 華
Change Has Come to America	池 田 彩 雲（ゲストスピーカー）

○ A.C.C. 国際交流学園と合同で開催

昨年10月に実施したスピーチコンテストで優秀だった3名の学生がスピーチを披露

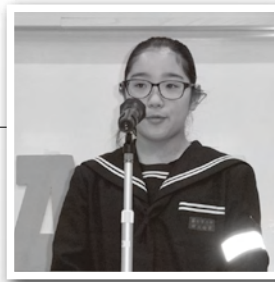
初級の部	優 秀 賞	ベトナム出身	グエン タンタインさん	お酒
中上級の部	優 秀 賞	中国出身	ジョウ シャオチンさん	ささやかな幸せ
	最優秀賞	中国出身	ジャオ ジーハンさん	留学生にとって重要なこと



佐々木義仁くん



佐野瑚花さん



市川由華さん



加藤凜子さん



芦澤圭太くん



池田彩雲さん



ゲンさん



ジョウさん



ジャオさん



大木顧問訃報

令和元年 6 月 20 日、富士宮国際姉妹都市協会、大木實顧問がご逝去されました。大木顧問は、平成 13 年～ 15 年度に会長を務められ、7 日間の親善訪問団派遣など、富士宮市・サンタモニカ市との友好事業にご活躍されました。大木顧問のご冥福をお祈り申し上げます。

令和2(2020)年度 総会のお知らせ

- 日程：5 月 8 日（金）午後 3 時～ 会場：富士宮市役所 7 階 710 会議室

令和2(2020)年度の主な事業予定

- サンタモニカ交換学生事業 7 月～ 8 月に実施
- 姉妹都市提携 45 周年 サンタモニカ市親善訪問団派遣 8 月 18 日（火）～ 22 日（土）
- 中学生英語スピーチコンテスト 冬頃実施

*詳細は随時HP・facebook 等でお知らせします

交換学生募集のお知らせ

ホームステイ in サンタモニカ

毎年 夏期休暇に合わせて実施！
渡航費用を一部補助します！



実施：
7月下旬～8月中旬を予定
(今回は例年とは逆で、受入が先、その後派遣となります。)



- ★対 象 高校生 *市内在住、または市内高校に通学
- ★募集人数 3人(予定)
- ★募集期間 ～4月17日(金)まで

舗装工事
一般土木工事



株式会社 丸進建設

富士宮市神田川町 17-8

☎0544-24-8255

海外旅行保険



☆海外旅行中のケガや病気に備えて

Basic Plan

短期旅行プラン

Study Abroad /

Long Stay Plan

留学・長期ステイプラン



【お問い合わせ先】

創業 1966 年

保険のワタナベ

(有)インシュアランスブレイン

〒418-0067 富士宮市宮町 4-7

電話 0544-26-5882 FAX0544-23-7944

—あなたのお車を、しっかりサポート—



KASUGA.JD

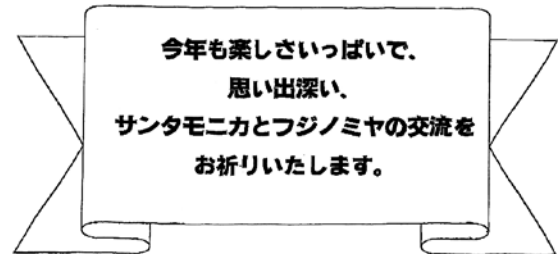
株式
会社 **春日自動車商会**

三菱自動車サテライトショップ富士宮中央店

TEL (0544) 24-3636

FAX (0544) 23-8448

Mail kasuga@kasuga-jd.com



今年も楽しさいっぱいで、

思い出深い、

サンタモニカとフジノミヤの交流を

お祈りいたします。

快適な住まいをあなたに

株式会社 赤池工務店

総合建設（建築・土木）設計施工



〒418-0001

富士宮市万野原新田 3 1 5 6 番地の 8

TEL (0544) 27- 2168 (代)

E-mail: tabldcc@taupe.plala.or.jp

FAX (0544) 27- 8782

あなたの未来を 共に創る パートナー

アイザワ証券は金融商品のご提供だけでなく、
様々なお悩みを解決するお手伝いをいたします。

- ・インターネット取引の仕方を教えてほしい
- ・アジアの成長が気になる
- ・遺言書の書き方がわからない
- ・相続税がいくらかかるのか知りたい
- ・取引先や販路を増やしたい
- ・事業承継に悩んでいる



— アイザワ証券 —
Cross-Border Solution

おかげさまで創業 100 周年

アイザワ証券 富士宮支店

〒418-0066 静岡県富士宮市大宮町 10-3

TEL: 0544-24-3111 (富士宮駅北口徒歩 5 分)

www.aizawa.co.jp

アイザワ証券



心身ともに たくましく
豊かな環境に包まれた 乳幼児期を



学校法人足立学園 認定こども園
リーチェル幼稚園

住所：〒418-0051 富士宮市淀師 1742-1
ホームページ <http://www.rcl.ed.jp/>



割烹旅館 たちばな



割烹旅館ならではの贅を尽くした料理の味わい
和の趣のあふれる美しいたたずまい 細やかなおもてなし
皆さまの心を癒す静かな空間をお創り致します

〒418-0039

静岡県富士宮市野中1085-4(富士宮ゴルフクラブ下)

TEL 0544-27-7000(代)

FAX 0544-24-0104

E-mail: ishida@tachibana-fuji.co.jp



富士宮の介護サービス

Sansei
有限会社サンセイ

- 居宅介護支援
- 小規模多機能型居宅介護
- グループホーム

「第二の家族になりたい」それが私たちの願いです。
利用者様やご家族様が心豊かに、共に明るく過ごせるよう、
第二の家族となれるようお手伝いさせていただきます。



有限会社サンセイ本社

〒418-0001 富士宮市万野原新田 4138-4

→ お問い合わせ先

TEL0544-28-3567

HP <http://sansei-kaigo.net/>

サンセイ 富士宮



富士宮市とサンタモニカ市は、

2020年で

姉妹都市提携 45 周年

を迎えます。



当協会の事業をご支援くださる皆様のおかげで、

45周年を迎えることができます。

これからも、両市の友好関係の発展に尽力してまいります。

今後ともよろしく願いいたします。

富士宮国際姉妹都市協会 有志一同

親善訪問団募集のお知らせ

サンタモニカ&LA

メジャーリーグ
(エンゼルス戦) 観戦ツアー付き
大谷翔平選手が観られるかも!?

費用：20万円程度
(出発時の燃油サーチャージ等により変動する可能性があります。)

期間：令和2年8月18日(火)～22日(土)



お問い合わせ・申し込みは、富士宮国際姉妹都市協会事務局まで

編集後記

今年度から富士宮国際姉妹都市協会に事務局員として参加させていただくことになりました。来年度で姉妹都市提携45周年という、歴史ある交流に携わることができ、貴重な経験をさせていただいています。

私は英語が得意な方ではありませんが、今年1年間、サンタモニカ高校訪問や、交換学生事業等を経て、海外の方々と交流できる機会を持つことは素晴らしいことだと感じたと同時に、このような機会があることを羨ましくも思いました。事業に参加した方々、特に学生の姿を見ていると、試行錯誤してコミュニケーションをしようとする姿、伝わったときの笑顔、サンタモニカから帰ってきたときの清々しい表情など、1つ1つが輝いていて、素晴らしい経験をしていることが伝わってきます。そして何より、外国にかけがえのない友達ができることは、一生の宝物になると思います。

そんな経験ができる事業に携われることに感謝し、これからも様々な角度からサポートができるよう精進していきます。

事務局 手塚 誠也



会員募集

当協会では、会員の皆様からお預かりした会費により事業運営をしております。

皆様の会費や寄付により、富士宮市の将来を担う若者たちのために、より多くの英語発表、国際交流の機会を提供することができます。ご協力をお願いいたします。

富士宮国際姉妹都市協会事務局
富士宮市役所 市民交流課内

Tel 0544(22)1486 Fax 0544(22)1284

Email:koryu@city.fujinomiya.lg.jp

<http://www.facebook.com/fiscafujinomiya>

